青梅市文化財ニュース　第１３５号

平成１１年　1月２０日

発行　青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

変わる雑木林と野鳥

雑木林は、昔の人が生活に必要な薪や炭を作る原木、堆肥を落ち葉などを集めるために、人工的な維持・管理を行ってきた林です。林内での作業が行いやすいように、下草や薮はきれいに刈り払われています。青梅市内の雑木林に相当する面積は、青梅市史下巻「青梅林業」によれば、約 1300ha となっています。これは市内の森林の約２０％に相当します。（平成元年調べ）

昭和３０年代頃から人々の生活様式が変わり、雑木林が放置されるようになりました。人手の加えられなくなった雑木林には、ヒサカキやアオキなどの低木が入り込み、下薮からを作るようになります。市内にもこのような下薮の茂った雑木林が、多く見られます。雑木林の状態がこのように変わり始めたのは最近のことなので、人手による管理を離れた雑木林が今後、どのような変化をたどるのか、解らないことが沢山あります。

雑木林の環境が変われば、当然そこに住む野鳥の種類も変わることが予想されます。例えば下薮の多い雑木林には、夏だと繁殖するヤブサメやウグイスなどが、冬には越冬するシロハラ、アカハラ、アオジなどが増加することが予想されます。それを確かめるため、これからの記録を地道に積み重ねていく必要があります。青梅市内の雑木林は、そのための絶好のフィールドになりつつあります。

市内の雑木林の野鳥を見ていると、やはり最近少しずつ変わってきているように感じられる点があります。夏の雑木林の代表的な野鳥にサンコウチョウがいます。私個人の記録だと青梅市内では少なくとも８年前よりこの鳥の記録がありません。それが、昨年、一昨年と続けて市内の丘陵地に姿を現しています。これは一時的なものなのか、それともカワセミのように、復活、定着するのか、今後のデータを積み重ねなければ判断できません。

また、サンショウクイという、やはり最近１０年ほど、私は姿を見ることができませんでした。それが４年前から毎年、多摩川上流の大菩薩峠や笠取山周辺の亜高山帯といってもよい地域で観察されています。これらの地域では逆に、４羽の家族群を見ることもできました。サンショウクイは、繁殖地を丘陵（雑木林）から亜高山帯へ移動させたかのようにも思えます。

一つの地域のデータだけでは、雑木林とそこに住む野鳥の変化は見えてこないのかもしれません。

（文責　桜岡）